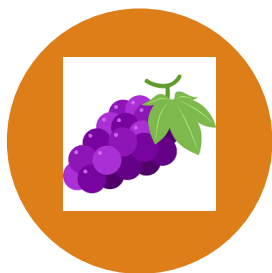
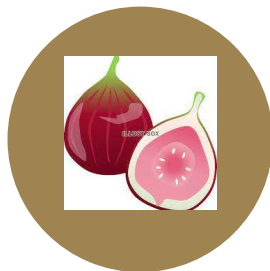


# イスラエルを象徴する三つの「木」



ぶどうの木



いちじくの木

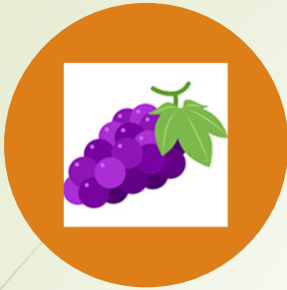


オリーブの木

● 聖書には、イスラエルを象徴する三つの木があります。

- (1) 「**ぶどうの木**」・・・出エジプトからバビロン捕囚までのイスラエル
- (2) 「**いちじくの木**」・・・イエシュアの初臨から今日までのイスラエル
- (3) 「**オリーブの木**」・・・これから(将来)のイスラエル。

● 特に、心頑ななユダヤ人に対して、使徒パウロはイスラエルが頑なになったのは奥義であることを語っています。つまり彼は、それが異邦人に福音が伝えられるための、神の隠されたご計画であったと悟ったのです。



## ぶどうの木

### 旧約における「ぶどうの木」のたとえの系譜

- 神の民イスラエルは「**ぶどうの木**」にたとえられます。

【新改訳2017】詩篇80篇8～14節

- 8 あなたはエジプトからぶどうの木を引き抜き 異邦の民を追い出してそれを植えられました。
- 9 その木のためにあなたが地を整えられたので それは深く根を張り地の全面に広がりました。
- 10 山々もその影におおわれました。神の杉の木もその大枝に。
- 11 ぶどうの木はその枝を海にまで 若枝をあのかくにまで伸ばしました。
- 12 なぜあなたはその石垣を破り 道を行くすべての者がその実を摘み取るまかにされるのですか。
- 13 林の猪はこれを食い荒らし 野に群がるものもこれを食らっています。
- 14 万軍の神よ どうか帰って来ててください。天から目を注ぎご覧になってください。  
このぶどうの木を顧みててください。



# ぶどうの木

旧約における「ぶどうの木」のたとえの系譜

## (1) イザヤ書5章2, 4節

2 彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。ところが、酸いぶどうができてしまった。

4 わがぶどう畑になすべきことで、何かわたしがしなかったことがあるか。なぜ、ぶどうがなるのを心待ちにしていたのに、酸いぶどうができたのか。

## (2) エレミヤ書2章21節

わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。



## ぶどうの木

旧約における「ぶどうの木」のたとえの系譜

### (3) エゼキエル書15章6～8節

6 それゆえ、【神】である主はこう言われる。「わたしが薪として火に投げ入れた、森の木立の間の**ぶどうの木**のように、わたしはエルサレムの住民を火に投げ入れる。

7 わたしは彼らに敵対して顔を向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを焼き尽くす。わたしが彼らに顔を向けるそのとき、あなたがたはわたしが【主】であることを知る。

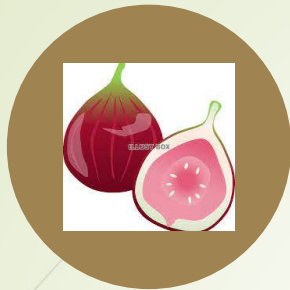
8 彼らがわたしの信頼を裏切ったので、わたしはこの地を荒れ果てさせる——【神】である主のことば。」



## ぶどうの木

旧約における「ぶどうの木」のたとえの系譜

- ここで重要なことは、イザヤ書5章1～4節とエレミヤ書2章21節で、神が「なぜ」「どうして」と問いかけています。「良い(甘い)ぶどう」を期待して「純種の良いぶどう」を植えたにもかかわらず、その期待は裏切られ、「酸いぶどう」(悪臭を放つぶどう)に変わってしまったからです。しかしエゼキエル書15章1～8節の「ぶどうの木のたとえ」では、もう問いかけはありません。実を結ばなかったぶどうの木の無用性が語られ、神自ら神の民イスラエルから顔をそむけることを決意されました。それは徹底的な審判が下ることを意味しています。



# いちじくの木

## 「いちじくの木」についてのイエシュアの預言

●神の民イスラエルは「いちじくの木」にもたとえられます。イエシュアは、以下のように、預言的なことばを語っています。(1)ルカ13:6~9、(2)マタイ21:18~22、(3)マタイ24:32~33を順に見てみましょう。

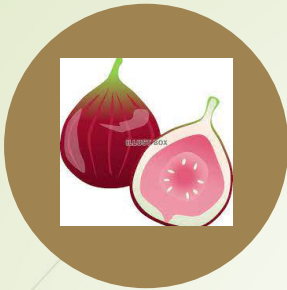
### (1)【新改訳2017】ルカの福音書13章6~9節

6 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。そして、実を探しに来たが、見つからなかった。

7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年間、このいちじくの木に実を探しに来ているが、見つからない。だから、切り倒してしまいなさい。何のために土地まで無駄にしているのか。』

8 番人は答えた。『ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥料をやってみます。』

9 それで来年、実を結べばよいでしょう。それでもだめなら、切り倒してください。』」



# いちじくの木

## 「いちじくの木」についてのイエシュアの預言

### (2) 【新改訳2017】 マタイの福音書21章18～22節

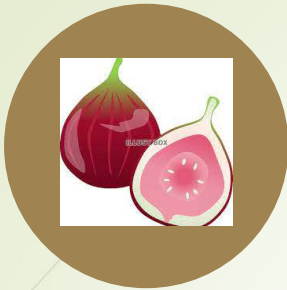
18 さて、朝早く都に帰る途中、イエスは空腹を覚えられた。

19 道端に一本の**いちじくの木**が見えたので、そこに行って見ると、葉があるだけで、ほかには何もなかった。それでイエスはその木に「今後いつまでも、おまえの実はならないように」と言われた。すると、たちまち**いちじくの木**は枯れた。

20 弟子たちはこれを見て驚き、「どうして、すぐに**いちじくの木**が枯れたのでしょうか」と言った。

21 イエスは答えられた。「まことに、あなたがたに言います。もし、あなたがたが信じて疑わないなら、**いちじくの木**に起こったことを起こせるだけでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言えば、そのとおりになります。

22 あなたがたは、信じて祈り求めるものは何でも受けることになります。」



## いちじくの木

「いちじくの木」についてのイエシュアの預言

### (3) 【新改訳2017】 マタイの福音書24章32～33節

32 **いちじくの木**から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。

33 同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。

●ここでの「枝が柔らかくなって葉が出て来ると」とは、イスラエルが国として復興すること(1948年)を預言していると考えられます。イエシュアの再臨はいよいよ近づいているのです。





## オリーブの木

使徒パウロの「オリーブの木」のたとえ

- 「**ぶどうの木**」が過去のイスラエル、「**いちじくの木**」がイエシュアの初臨から今日までのイスラエルを象徴するならば、「**オリーブの木**」は将来のイスラエルの回復を象徴しています。
- ローマ人への手紙9～11章はこれら全体が包括されています。  
9章には、エジプトから携え出されて、カナンの地に植えられた選びの民、つまり、ぶどうの木として記されています。  
10章には、イスラエルと預言されていた福音が述べられており、神は御子によって、農夫のように、いちじくの木の下に肥やしをやりましたが、その結果は良くありませんでした(10:21はイザヤ65:2の預言)。



# オリーブの木

使徒パウロの「オリーブの木」のたとえ

【新改訳2017】ローマ人への手紙11章16～18節

16 麦の初穂が聖なるものであれば、こねた粉もそうなのです。根が聖なるものであれば、枝もそうなのです。

17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、

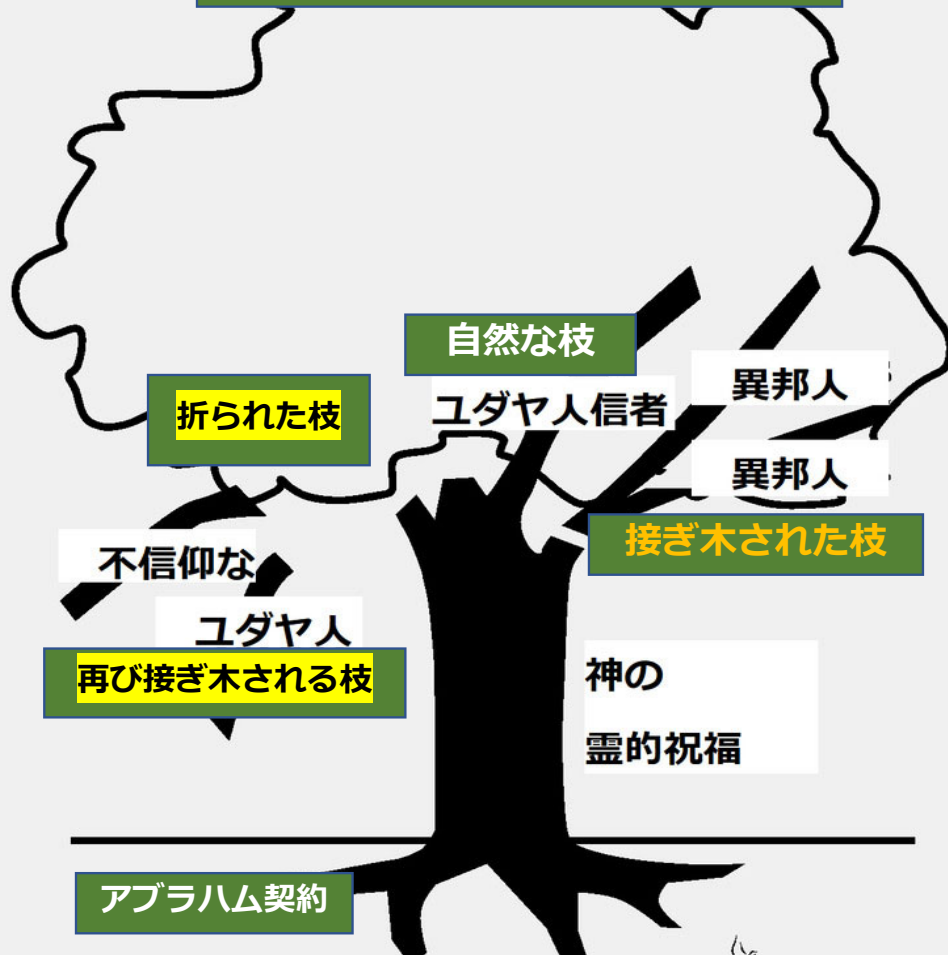
18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

●このみことばには、神の民イスラエルと教会との関係が表されています。

「根」は選びの民イスラエル、「折られた枝」とはイエシュアをメシアとして拒んだユダヤ人、「接ぎ木された野生のオリーブ」とはユダヤ人と異邦人からなる教会です。

# オリーブの木

ローマ11:17~24



オリーブの根は木全体に豊かな養分を与えながら、やがて豊かな実りをもたらします。

- (1) **折られた枝**は、不信仰なユダヤ人
- (2) **接ぎ木された枝**は、異邦人信者
- (3) 自然な枝は、ユダヤ人信者(メシアニック・ジュー)
- (4) **折られたが再び接ぎ木される枝**は、メシア再臨前にイエシュアをメシアと信じるユダヤ人=「イスラエルの残りの者」(ロマ9:27、黙12:17)

●教会とは(2)と(3)の共同体です。当然ながら、教会の根はヘブル的なものです。